

ICT導入による看護業務改善計画

医療法人徳洲会 皆野病院

施設概要

病院の理念

- ・生命を安心してあずけられる病院
- ・健康と生活を守れる病院
- ・地域の期待と信頼に応えられる病院



所在地	埼玉県秩父郡皆野町皆野2031-1
病床数	許可病床：150床（●一般急性期60床 ●療養90床）
主に算定している入院基本料	一般急性期病棟：10対1 医療療養病棟：20対1
職員数	89名（令和7年1月1日現在） 看護師68名、准看護師4名、看護補助者13名、看護補助事務4名
看護職の離職率	令和5年度：看護職員16.5%
患者数	令和5年度 外来患者数67,564名 入院患者数958名（延べ入院患者数35,637名）、
看護部の理念 （患者へのケア方針）	思いやりの心と笑顔で、患者様・利用者様のQOLの質向上を目指した看護サービスを提供します。
看護提供方式	チームナースング制
看護記録方式	SOAP・一部経時記録等
現在使用している看護機器	AI問診システム、ナースコール・センサー、モバイル端末三点認証
問い合わせ先	電話番号：0494-62-6300 メールアドレス：minano@fureaihosp.or.jp

本事業に参画した背景・目的

背景

- 地域で救急受け入れ病院が減り、当院への救急搬送患者が増え、看護職の残業時間が増えて離職率も増えたため
- 人口減少から看護師の人材不足が見込まれる中、期限付き看護師を採用しているので、人材育成が儘ならない状況であるため
- 看護職員の業務負担軽減及び働きやすい職場環境を作っていくためにも、看護業務における課題を可視化し、ICTなどのテクノロジーを効果的に活用するため

目的

- 看護業務の効率化・負担軽減を図ることで看護職員の離職防止、看護サービスの質を向上させる
- 常勤看護師が増えインシデントやクレームを減らし、職員、患者にとって安心・安全な環境を提供する
- 患者様とのコミュニケーションやベッドサイドケアの時間を最優先に確保し、職員と患者様双方の満足度をより向上させる

取り組み予定期間と主な内容

期間		主な取り組み内容
令和6年	7～9月	・看護業務課題の抽出とICT機器を活用するかの選別：看護部責任者会議 ・導入するICT機器の検討：看護部責任者会議 ・業務改善の院内での進め方に関する合意形成：管理者会議
	10～12月	・導入ICT機器の業者との連携：見積もり
令和7年	1月～4月	・選定したICT機器の導入：稟議書 ・業者による使用方法のレクチャー：役職者・担当看護師受講 ・各部署での動画作成 ・作成した動画の活用：4月開始で作成中
令和8年		・導入後のICT機器の効果測定 ・1～2年目の取り組みの振り返り、4年目以降で取り組むべき課題の洗い出し
令和9年以降		・3年目に洗い出された課題への取り組み

3階病棟における想定削減可能時間(年間)-関連する職種別

年間の想定削減可能時間は約6,714時間(1日約18時間)。看護部だけで完結可能な業務が5,895時間(全体の約88%)となり、上位を占めている

3階病棟における想定削減可能時間(年間)*1		業務改善に関連する職種				
		(時間)				
総計		6,714				
		医師	薬剤部	外来 看護師	放射線科	病棟
バイタルサイン測定結果の入力	1,916					
温度板と看護記録の重複	913					
申し送り	722					
清潔ケア	455					
看護記録	426					
電話対応	365					クラーク
患者見守り	365					
病棟から検査室までの患者移送	304				✓	
患者荷物の受け取りと確認	266					看護助手
入院記録の作成	217			✓		
入院患者の物品準備・依頼	217					
入院患者への説明	195			✓		
患者家族への連絡	78					
注射薬、検体スピッツのラベル作成 ^{*2}	76					
面会時の家族対応	65					クラーク
医師への連絡	59	✓				
転棟・退院時サマリの作成	49					
医師の患者説明への同席	26	✓				

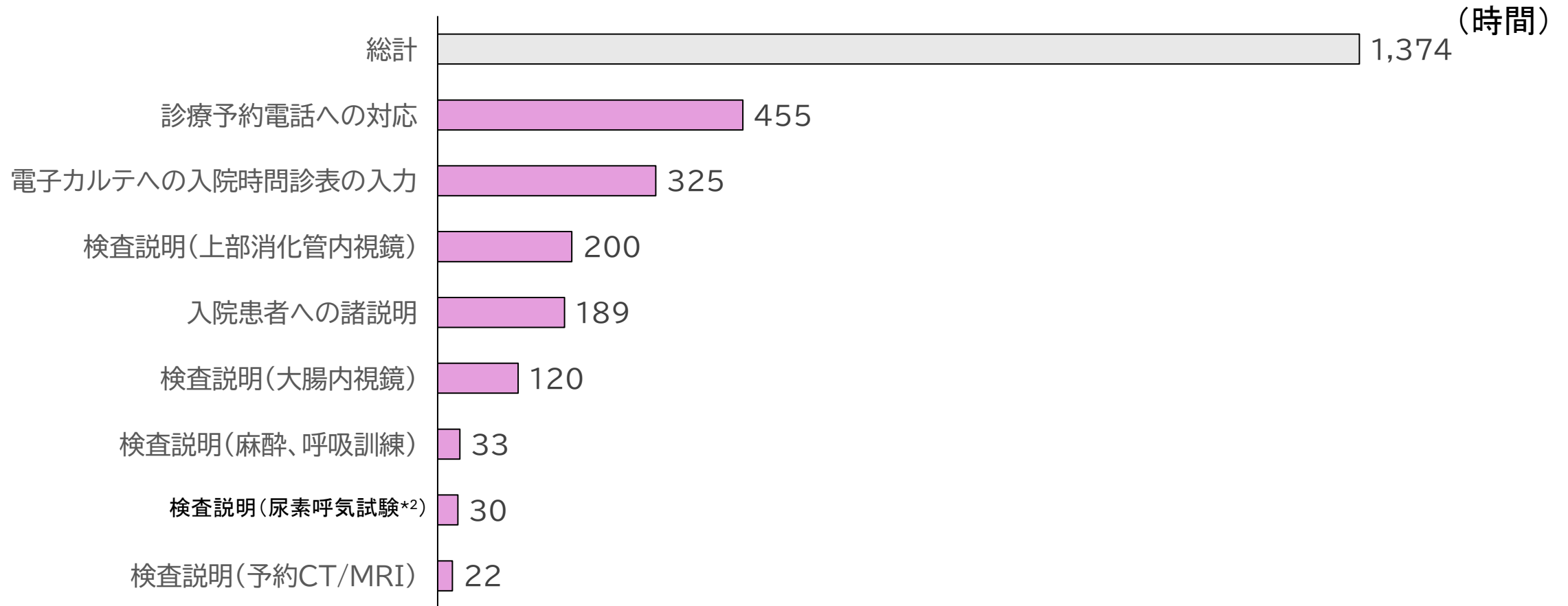
*1: 1年365日、52週として算出。削減可能時間数は病棟の彼島主任看護師、石井副主任看護師と協議して確認

*2: 薬剤部への「緊急入院時等の臨時的注射薬ラベルの作成」業務のタスクシフト(年間想定削減可能時間は30時間)は「注射薬・検体スピッツのラベル作成」と業務内容が重複するため包括する

外来における想定削減可能時間(年間)

現時点での年間の想定削減可能時間は1,374時間(1日約4時間)。当初から課題感のあった患者説明だけでなく、診療予約電話への対応や、電子カルテへの入力時間も大きな業務負担となっている

外来における想定削減可能時間(年間)*1



*1:1年365日、52週として算出。想定削減可能時間は外来フロアの阿部主任看護師、高野副主任看護師と協議して確認

*2:「尿素呼気試験」:ピロリ菌への感染状況を検査するための試験で、尿素を含んだ検査薬を服薬し、その前後で採取した呼気を分析することで感染状況を判断する

検討の結果

1) バイタル測定結果自動入力は評判が良くなかった

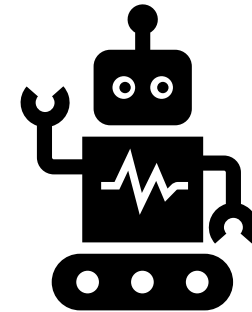
2) 令和7年4月より二次輪番救急当番日が増える



病棟・外来ともに入院時の説明業務に負担を感じている



ICTを活用した動画説明



課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

- ・ 看護業務の効率化・負担軽減を図ることで看護職員の離職防止、看護サービスの質を向上させる

目標

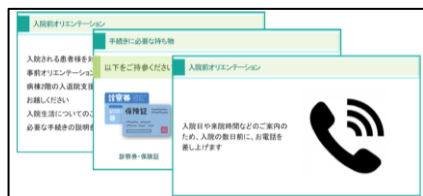
- ・看護ケアの充実:患者と向き合う時間を増やし、看護師の働く満足感・やりがいを高める
- ・医療安全の徹底:インシデントやクレームを減らし、安全で安楽な環境と維持する
- ・カンファレンスのこまめな実施:患者に提供する看護の質を高め、患者の満足度を高める

Gakkenメディカルクリップ

入院案内や検査、麻酔などの患者・家族向け説明動画編集・配信システム。対面による患者説明時間の削減により、「説明業務の効率化」「待ち時間の有効活用」に繋がる

製品の概要

- Gakkenメディカルクリップとは、入院案内や検査、麻酔などの患者・家族向け説明動画を簡単に作成し、LINEを用いて患者・家族に簡単に配信できる、学研が独自に開発した動画編集・配信システム
- 前提条件としてWi-Fi環境が必要
- 入院案内や検査など、現場でよく使われる6つのカテゴリーに分けて短い動画テンプレートがあるため、施設に合わせて編集することで簡単に自施設の動画作成が可能
- スライドショーのように1ページずつ動画の作成が可能。スライドを再生しながら、テキスト、イラスト、ナレーションを編集できる
- 多彩な利用方法
 - 動画をループ再生可能なため、待合室等のモニターで持続再生
 - 動画URLをQRコードなどで渡して個人の端末にて視聴
 - 持ち物チェックリスト等の書類PDFをLINE送付
 - 院内のPCやタブレット等での視聴



課題と期待される効果

課題

- 患者やご家族に入院時の案内等、説明しなければならない項目が多すぎる
- ご家族に入院の説明が伝わっておらず、対応が大変

期待される効果

- 2名で行っていた入院説明や検査に関する説明を1名でできるようになるなどの人件費削減が期待される
- 入院説明や検査に関する説明などを動画にし、患者・ご家族にタブレット等で視聴していただくことで「説明業務の効率化」「待ち時間の有効活用」に繋がる

導入経費

月額59,800円(717,600円/年) 1年毎の更新

取り組み内容（業務改善を行う業務）

#	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来の所要時間 (時間/年)	想定削減余地	
				想定削減 可能時間(時間/年)	業務全体に占める 割合(%)
1	入院時の案内について	メディカルクリップ	189	73	38.6%
2	手術についての準備と流れと麻酔	メディカルクリップ	33	28	84.8%
3	内視鏡検査の説明について	メディカルクリップ	120	20	16.7%

ICT導入により見込まれる効果

#	製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
		定性or定量	測定したい効果			
1	メディカルクリップ	定量	・患者、家族が動画閲覧中、看護師は入院に必要な書類を確認することができる。	職員アンケート方式	説明に対する負担が減ったが9割以上	開始1週間後～1ヶ月間
			・病棟で患者荷物の電話対応時間の短縮。	職員アンケート方式	説明に対する電話負担が減ったが9割以上	開始1週間後～1ヶ月間
		定性	・動画を閲覧することで患者、家族も参加型治療の気持ちが生まれる。	患者へのアンケート方式	よくわかったが9割以上	開始1週間後～1ヶ月間
			・動画で再生が可能であり患者・家族は不安が軽減し満足度が挙がる。	患者へのアンケート方式	よくわかったが9割以上	開始1週間後～1ヶ月間

本事業全体を通して得られた効果・影響

1. 外部が入ることによって看護業務の課題が可視化でき、看護部のみで改善可能な業務の割合が多いことも把握でき改善のきっかけができた
2. 現場の副主任、主任がヒアリングを受けたことで、自分たちの問題であると意識改革ができ、意欲的に取り組むことができた
3. ICT導入は入れて終わりではなく、導入後の効果検証や現場へのフォローアップが重要、世の中にこういったICT機器があるかを理解した上で検討することができた

当院での取り組みポイント



- ・自分たちで動画作成することで手順の見直しにもなる
- ・主任、副主任が担当することでスタッフとの連携が図りやすい
- ・動画作成の時間短縮と経費が安価であること

今後の展望

本計画完了後も継続して効率化できる業務がないかを検討し、ICT機器を取り入れて安心・安全な看護の提供に努める

業務改善やICT活用に向けて、現場の主体性や役職者の成長を期待し、職員とともに働きやすい環境づくりを目指す

抽出した業務で、ICTを導入せずとも改善可能なものにも継続して取り組む

ご清聴ありがとうございました